

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成25年度実績					平成26年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
栄養疫学 研究部	4.00	3.83	4.00	3.83	3.92	3.67	6	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民健康・栄養調査、DRIsの両方ともに、初期の成果を上げていると考える。 ・国民健康・栄養調査の分析は重要である。 ・健康増進部との国民健康・栄養調査に関する研究の調整が必要である。 ・国民健康・栄養調査について、科学的、疫学的な妥当性に留意した正確な集計・分析が可能となるように、精力的な努力が行われている。 ・食事摂取基準の根拠となる研究が、活発に行われていると言える。 ・国民健康・栄養調査の結果について、しっかり分析されていると考える。 ・調査の項目の中に社会環境の項目を含んでいただきたい。 ・国民健康・栄養調査では、調査の標準化から解析まで達成されており、評価できる。 ・食事摂取基準については、高齢者の調査も増えており、評価できる。 ・食事摂取基準において、日本人でのエビデンスの構築に期待する。 <p>【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針の見えない計画である。 ・中期計画終了時までのロードマップを明確にいただきたい。 ・法に基づくなど定型的部分も多い業務に対し、意欲的な展開が計画されたい。 ・転差に関する解析を深めていただきたい。 ・国民健康・栄養調査の20歳代の対象者が少ないことは、他の調査でも同様であるが、検討してほしい。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成25年度実績					平成26年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
健康増進 研究部	4.33	4.33	4.50	4.33	4.38	4.17	6	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介入研究とコホート研究は年度計画通りに達成したと考えられる。 ・サルコペニアとふくらはぎ周囲径の関連性を決めたことは重要である。 ・身体活動評価の成果を活用されていることも評価したい。 ・妥当な目標とそれに対する達成がみられる。 ・佐久コホートの食事調査は重要である。 ・運動ガイドライン研究室と身体活動評価研究室の協力を期待する。 ・身体活動基準の妥当性の検証に関する科学的な研究が取り組まれていることが、評価できる。 ・運動ガイドラインに関連する基礎的な研究が充分に行われた。 ・身体活動に関する遺伝と環境研究においては、遺伝子解析が行われ、水準が高い達成度は室によって異なる。 ・次のガイドライン作成に向けた調査研究が必要。(座位時間の問題) ・国際的なガイドラインの相異についての評価が重要。 ・認知度と身体活動に関する研究を積極的に進めてほしい。 ・運動・栄養・食事を組み合わせた大規模調査は研究所ならではの調査であり、生活習慣病予防やサルコペニア予防などには重要な内容であり、評価できる。 ・今後も継続した成果を期待する。 <p>【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画終了時までのロードマップを明確にしていきたい。 ・重要な研究が充分に継続される計画となっている。 ・国際的なガイドラインの相異についての評価についても、計画に含んでほしい。 ・認知症に対する研究を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成25年度実績					平成26年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
臨床栄養 研究部	4.33	4.00	4.17	4.17	4.17	4.00	6	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満に伴う高インスリン血症が、肝臓における糖質に脂肪合成の上昇により肝脂肪をもたらすことを明らかにし、この作用にはマクロファージが関係していることを明らかにしたことは興味深い。 ・動物実験成果をいかにヒトに適応していくのか、具体的計画が不明瞭。 ・成果を食事・栄養に還元できるように常に配慮願いたい。 ・極めて高度な研究内容(特に遺伝子解析)となっているが、これまでの実績に加えて成果を出していく努力が行われている。 ・東大病院との連携が密で、成果が効率的に得られている。 ・糖尿病基礎研究の進歩への貢献が大きい。 ・レベルの高い研究が行われていると評価できるが、研究所としてもう少し応用的な研究を進めることはできないか。 ・生活習慣病のための基礎となる研究であるが、達成率80%で順調に計画が実施されていると思われる。 ・引き続き成果を期待する。 <p>【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画終了時までのロードマップを明確にしていきたい。 ・テーラーメイド予防開発法など、高い目標に対する計画が立案されている。 ・年間実現性は現実的である。 ・テーラーメイド予防につながる研究まで発展できるのか。 ・高脂肪食については、量だけでなく質についての検討も望む。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成25年度実績					平成26年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
栄養教育 研究部	3.50	3.50	3.33	3.33	3.42	3.50	6	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養ケア・マネジメント、食育研究室ともに初期の目標を達している。なお、食育については、他の大学等との共同研究の成果も入れられると良いと思う。 ・長期的研究計画の欠如、短終的内容の研究成果で、大幅な見直しを要する。 ・食育、情報伝達は当研究所全体の大きなテーマである。全体で研究戦略を、特に統合に向けて検討してはどうか。 ・食育自体は厚労省、消費者庁の仕事だと思われる。 ・高齢者の生活習慣と健康度に関する研究成果が得られ、介護施設への栄養教育のあり方についての提案が行われている。 ・エネルギー必要量について有疾患、ライフステージが加味され貴重な知見がみられている。 ・イベントの実施が熱心であり、教育啓発への意欲が高い。 ・人員が少ない中での努力が認められる。 ・有疾患者などのエネルギー消費量に関する研究の意義について、もう少し説明が必要である。 ・高齢者の調査の成果が出ており、評価できる。 ・有疾患、高齢者、幼児のエネルギー消費量については、達成度100%となっているが、今後も有疾患者での調査を望む。 <p>【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画終了時までのロードマップを明確にしていきたい。 ・現実的成果をふまえての、実施可能な意義の大きい計画となっている。 ・計画が羅列的な感じがする。 ・今後の継続を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成25年度実績					平成26年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
基礎栄養 研究部	4.33	4.33	4.67	4.17	4.38	4.17	6	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低炭水化物食は裏返せば、高脂肪食になるので、脂肪肝の改善としなかったのは当然の結果と考える。 ・寒冷刺激による安静時代謝量への影響が、褐色脂肪細胞の改善に、褐色脂肪細胞の特徴を考えると変わると考える。 ・有意義なデータが確実に蓄積されつつある。 ・非常に本質で重要な研究である。 ・食べ方も重要である。 ・統合後の次期中期計画では、重要な位置づけとすべき分野ではないか。 ・マウスでの脂質代謝研究での知見が蓄積され、良い着眼点がみられる。 ・二重標識法によるエネルギー必要量研究は、摂取基準においても最も信頼できる方法とされているので、高齢者に対象を広げた意義は大きい。進行に困難があっても鋭意つけていただきたい。 ・糖質制限食の脂肪肝悪化など関係があることを明らかにしたのは評価できる。 ・栄養比率の異なる食事への効果は、基礎データとして必要であり評価できる。 ・95en%脂肪は低炭水化物というより高脂肪とも考えられるため、炭水化物を増やした研究に期待する。 ・高齢者・小児の調査が進められており、評価できる。 <p>【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画終了時までのロードマップを明確にしていきたい。 ・最終年度にしっかりと終えるべき事について確認ができています。 ・主要栄養素研究室の研究で、ヒトを対象とした研究ができないか。 ・国民健康・栄養調査における男女差について、詳細な研究をお願いしたい。 ・今後の成果を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成25年度実績					平成26年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
食品保健 機能研究部	4.17	4.67	4.00	4.33	4.29	3.83	6	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味深い結果がまた作られている。 ・必要業務の遂行がなされている。 ・実験内容に関しては、進捗がやや遅い印象がある。 ・テーマの設定が妥当である。 ・食品栄養・表示研究室のミッションが不明確。研究内容と研究室名が一致していないのではないか。 ・業務も研究所が生き残るためには重要。 ・試験検査法の研究については、着実に積み上げられている。 ・改正法による食品衛生検査機関における収去食品栄養表示試験は、タイムリーである。 ・微量栄養素の生理機能についての基礎的研究が優れている。 ・注目を集めている「健康食品」について、関心の持たれている医薬品併用の安全性、国際戦略による機能性食品併用いずれも着眼点が優れている。 ・各研究室で活発な活動がされている。 ・中期目標・計画には示されていないが、厚生労働省、消費者庁、健康と食品成分に関連する技術的学術的検討、調査研究など研究所の本来業務として重要であり、評価できる。 ・登録試験機関の精度を保っている。 <p>【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画終了時までのロードマップを明確にしていきたい。 ・着実な研究の継続が計画されていて良い。 ・健康食品の安全性評価に、もっと力を注いでいきたい。 ・引き続き成果を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成25年度実績					平成26年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
情報センター	4.33	4.67	4.17	4.50	4.42	4.17	6	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極めて適切に情報発信していると思われる。 ・問題設定、解析視点は興味深い。 ・重要な行政対応業務であり、調査研究も有意義である。 ・健康食品の情報提供が盛んである一方、被害情報の分析は重要な課題である。 ・利用実態はハイリスクグループへの影響がみえるように更に研究を進め、普及啓発に努めていただきたい。 ・IT技術による新技術の把握法が優れている。 ・多くの情報が発信されているので、業績として充分評価できる。 ・トクホについて、国際基準との整合性をとることが必要である。 ・トクホ、サプリメントの利用に関する調査はこれらに関わる企業や関係者にとって認識しておかなければならないデータである。 ・ページカテゴリ別のアクセス数の推移に変化はあるが、データの蓄積、発信については評価できる。 <p>【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画終了時までのロードマップを明確にしていきたい。 ・ハイリスクグループ、安全性有効性等よく着眼している。 ・統合へのIT対応について、よく考えている。 ・引き続き信頼される情報管理を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成25年度実績					平成26年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
国際産学 連携センター	4.17	4.17	4.33	4.17	4.21	3.83	6	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に大きな問題はないと思われる。 ・生物統計部門の目標が見えにくい。 ・生物統計研究室の商品開発等のミッションは、見直してはどうか。 ・アジアを中心として国際研究者との交流時案が活発に行われている。 ・国際セミナーが効果的に企画されている。 ・生物統計研究室においては、重要なテーマを捉えて行っている。 ・WHOCCの準備が着実である。 ・WHOCCの指定については、評価できる。 ・国際交流、シンポジウム、セミナー等行われており、評価できる。 ・国民健康・栄養調査及び特定健診等のデータを活用したモニタリング手法を確立し、標準化できるように望む。 <p>【平成26年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようやく軌道に乗りつつあると考える。 ・中期計画終了時までのロードマップを明確にしていきたい。 ・通常業務の継続のなか、特定健診、特定保健指導の計画もできていることが評価される。 ・国際的なガイドライン策定に積極的に関与していきたい。 ・引き続き成果を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成26年3月7日(金)実施 外部評価結果
(Ⅱ) 研究所全般にわたる事項

評価項目	評価	評価者数	コメント
①研究所の目的、理念に合致した運営がなされているか。	4.50	6	<ul style="list-style-type: none"> ・適切と考える。 ・国の政策に合致した適切な運営となっている。 ・施策反映が充分果たされている。 ・特に問題なく運営されており、評価できる。
②効率的な組織・予算運営がなされているか。	4.17	6	<ul style="list-style-type: none"> ・適切と考える。 ・委員会組織を設けて効率的な運営が実施されている。 ・厳しい中での努力がなされている。 ・全てが効率的とはいえないが、問題なく運営されている。 ・概ね良好であると思う。
③研究成果は十分出ているか。 (学術論文、学会発表等)	4.17	6	<ul style="list-style-type: none"> ・適切と考える。 ・論文引用についての課題において、十二分な達成が果たされている。 ・目標に達していない部分もあるが、研究成果は出ていると思われる。 ・部によって差がある。
④倫理規定、倫理委員会は適切に運用されているか。	4.50	6	<ul style="list-style-type: none"> ・適切と考える。 ・適切に運営されている。 ・適切な運営が認められる。
⑤研究成果の社会還元は適切になされているか。(セミナーの開催、情報提供、知的財産の活用等)	4.17	6	<ul style="list-style-type: none"> ・適切と考える。 ・少ない人員でよくやっている。 ・特許が見送りとなったが、現実的な判断であり、特許に関する目標を見直す必要があるのでは。 ・開かれた研究所は充足されている。 ・適切に対応されている。 ・特に健康増進研究部は活発に活動していると思う。
⑥他機関との連携や協力は適切になされているか。(受託・共同研究、連携大学院、国際協力、人材育成等)	4.33	6	<ul style="list-style-type: none"> ・適切と考える。 ・受託研究、共同研究、連携大学について、十分な活動が行われている。 ・適切な連携や協力が認められる。 ・WHO研究協力センターの指定がなされたことで、大きな飛躍が期待される。
総合的なコメント			<ul style="list-style-type: none"> ・食品・健康の研究所のミッションに向かってストーリーを確かなものとして、統合の準備を進めていただきたい。 ・情報発信は消費者庁等から行う方法を考えられないか。 ・統合が閣議決定されるなど変化を伴う状況の中で、目的を見失うことなく着実な運営が行われていると言える。 ・国を代表する健康と栄養に関する研究機関として、時代のニーズに即した研究活動が行われるよう詳細な配慮がなされている。 ・例年並みの実績達成と評価される。しかし、実績の上積みが見られない。 ・運動と食事の併用効果に関する取り組みが、一般的に弱い印象がある。 ・研究所としての成果は認められる。 ・情報発信については、限られた人数の中では難しいのではないかと意見もあるが健康、栄養関連の研究所の成果は他機関との連携や協力を活用して、専門家だけではなく対象者にも継続することを望む。 ・以前に比べ基礎研究から人を使った調査研究の興味深い成果が多くなり、今後も期待する。 ・国民健康・栄養調査や食事摂取基準は、各部でそれぞれ実施されているが、少しずつ方向性が異なるように思えた。 ・良く活動されており、また成果もしっかり出されていると思う。 ・再来年度の医薬基盤研との統合により(組織巨大化により)これらの活動が低下しないよう懸念する。 ・健康・栄養調査のデータの蓄積は大変貴重であるので、その解析をもっと進めていただきたい。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

独立行政法人国立健康・栄養研究所外部評価委員会委員名簿

平成25年4月現在

委員氏名	所属・職名
○五十嵐 脩	神奈川工科大学 栄養生命科学科 教授
伊藤 裕	慶應義塾大学 医学部 教授
逢坂 哲彌	早稲田大学理工学術院 ナノ理工学研究機構 機構長
加藤 則子	国立保健医療科学院 統括研究官
川島 由起子	聖マリアンナ医科大学病院 栄養部長
下光 輝一	公益財団法人健康・体力づくり事業財団 理事長
豊田 正武	国立医薬品食品衛生研究所 名誉所員
大谷 敏郎	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 所長
三保谷 智子	女子栄養大学 出版部 香川昇三・綾記念展示室

・敬称略、五十音順 ○委員長